

授業実践（8 / 21時間目）

1 ねらい

身近な水を調査することにより、水への安全性や衛生面での意識を高める。

2 本時の評価規準

身近な川の汚れ具合に関心をもてたか。

3 準備

八瀬川、渡良瀬川、利根川から採取した水

ビーカー、手作り透視度計、ろ紙・ロート、ルーペなど

4 展開

	主な学習活動	指導上の留意点及び学習活動への支援	時間
導 入	1 前時の学習を思い起こす	前時に調べたことを思い起こさせ、調べ方の確認をさせる。	3分
展 開	2 透視度計を使い、3種類の水の透明度を測る。	八瀬川、渡良瀬川、利根川から採取した水を、透視度計に入れていき、上からのぞき、その二重十字がはっきり識別できなくなった深さを記録させる。	7分
	3 3種類の水をろ紙を使ってこし、ろ紙に残った物を観察する。	3種類の水をろ紙を使ってこし（時間短縮のため2つのロートで行う）、ろ紙に残った物をルーペを使って観察させる。また、残った物を川ごとに比較させる。	15分
	4 3種類の水を検査した結果をまとめ、前回調べた3種類の水の調査結果と比べる。	前時に3種類の水を目や鼻や指を使って調べた結果と合わせ、八瀬川、渡良瀬川、利根川の水の汚れ具合をまとめさせる。 前回調べた、学校池、寺川、蛇川の検査結果と併せ、6種類の水を比べさせ、水の汚れ具合の順位をつけさせてみる。 今回採取した川の水は、その川で採取しやすい場所の水であり、その川全体の汚れ具合を示すものではないことを知らせる。 川の水を採取した場合、季節やその前後の天気などによって様子が変わってくることも知らせておく。 自分たちで観察した川辺の様子について想起させ、さらに利根川などの川辺の様子についてもふれる。	15分
ま と め	5 水の調査を行った感想、気がついたことなどをまとめる。	6種類の水の調査を行った感想、気付いたこと、考えたこと、今後に生かしたいことなどをワークシートに記入させる。	5分